宮城県中学校長会
会　報

令和５年度
宮城県中学校長会 第74回総会開催される

総　会　概　略

６月１日（木），第74回宮城県中学校長会総会がホテル白萩を会場として開催されました。５月８日に新型コロナウイルス感染症が５類に引き下げられたこともあり，佐藤亨新会長の下，昨年度に引き続き会員全員が一堂に会しての開催となりました。御来賓として，新教育長の佐藤靖彦様，前会長の三田村素志様をはじめとする７人の方に御臨席を賜りました。

橋元伸二総務部長の開会宣言後，今年度４月に新たに就任なされた宮城県教育委員会教育長の佐藤靖彦様から御祝辞を賜りました。佐藤教育長は年度当初，事務局の職員に対し「子供たちが行きたくなる学校づくり，学校現場で働く先生方がやりがいをもって楽しく働ける学校づくりを目指し，学校現場と一緒に悩み，学校現場と感動を共有できる教育委員会になるために一緒に知恵を絞っていきましょう。」と話されたそうです。また，御祝辞の結びの部分では，「将来を担う子供たちの健やかな成長のために，子供たちが楽しかったと笑顔で帰れるように，先生方が教える喜びを感じて働けるように尽力いただきたい。」と話されました。

次に，今年３月末に御勇退なされた31人の校長先生方を代表して，前会長の三田村素志様に感謝状を贈呈いたしました。三田村前会長からは，「そのときそのときの最善の判断をするためには校長だけでは無理である。判断を補佐する仕組みや組織をつくっておかなければならない。そして，その仕組み等をしっかり活用していく校長のリーダーシップが本当に大事である。」「校長のリーダーシップは指示や命令ではなくて，情報や認識を職員間でしっかり共有できるようにすること。そこから生み出される新しい挑戦を，職員の活躍の場にすることが肝要である。」など，御自身の経験に基づいたメッセージをいただきました。

続いて，今年度新会員となられた32人の校長先生方が紹介された後に，新会員を代表して岩出山中学校髙橋理香校長に佐藤会長からバッチが授与されました。その後，新会員代表挨拶として，新田中学校小野寺春樹校長が力強く心のこもったスピーチを行い，総会の前半の部が締めくくられました。

後半の部では，大郷中学校菊池信行校長と南郷中学校小野ゆかり校長が議長を務め，前年度の事業並びに会計決算について協議がなされ，承認を得ました。また，運営規程の改正，令和５年度活動方針及び事業計画，会計予算，そして宣言・決議についても原案どおり承認されました。

最後に，斎藤博厚副会長が閉会の挨拶で「ポストコロナの中，従来の形に戻すもの，また働き方改革のエッセンスを加えブラッシュアップするものを見極め，実行していくために，市町村校長会，地区の校長会，そして県中学校長会のつながりを大切にして，目の前の子供たち，教職員のために一致団結していきましょう。」と締めくくり，閉会となりました。

挨　　拶

宮城県中学校長会
会　長
佐　藤　　亨

しっとりとした空気に，緑の香りが漂う季節となりました。今日は６月１日，各学校では，衣替えが行われ，夏服の生徒たちの，元気な笑顔があふれていることと思います。

本日は，大変お忙しい中，宮城県教育委員会教育長佐藤靖彦様，前宮城県中学校長会長三田村素志様をはじめ，４年ぶりに，御来賓の皆様，関係機関の皆様，歴代の校長会長の皆様方の御臨席を賜り，令和５年度宮城県中学校長会総会を開催できますこと，会員一同心より感謝申し上げますとともに，大きな喜びを感じているところです。

この３月をもちまして御勇退なされました31人の校長先生方におかれましては，長年にわたり，宮城県の教育の発展・向上のために御尽力をいただきましたこと，心から深く感謝申し上げます。皆様方の，今後ますますの御健勝を祈念いたしますとともに，今後とも後に続く我々後輩，そしてこの中学校長会への，変わらぬ御支援と御協力を賜りますよう改めてお願いを申し上げる次第です。

この度，新たに会員となられた32人の校長先生方，皆様の入会を心から歓迎いたします。

本日の総会は，会員が一堂に会し，時間と空気感を共有することで，同じ立場の者同士，顔の見える関係を築き，ネットワークを構築するとともに，74回を数えるこの会の雰囲気を感じていただき，校長としての自覚を新たにする場でもあります。今年は半日での開催となりましたので，限られた時間ではありますが，今年度の本会の活動について協議を行い，会の運営や活動方針についての認識を共有してまいりたいと思います。

さて，私たちは今，大きな転換期を迎えています。この３年間の新型コロナウイルスパンデミックによってもたらされた学校への影響は大きく，ポストコロナの教育は重要なテーマとなっています。オンライン授業やデジタル教材の活用，学習の遅れを取り戻すためのサポートなどの策は講じられてきましたが，生徒たちの社会性や協働能力の育成も，今後力を入れるべき大きな課題です。コロナ禍で失われたコミュニケーションや，人間関係の面を補うための教育活動の推進を図るとともに，中断していた地域との連携を再構築し，地域の資源や文化を教育に生かし，生徒たちの学びを，より実践的で意味のあるものにする取組を推進していかなければなりません。

新型コロナウイルスの影響は，生徒の教育だけにとどまりません。この間に採用になった，多くの新規採用教員も，本来の学校の姿や，これまで私たちが先輩方から受け継いできた，学校文化・教員の文化を経験していません。これからそれを，どう補完し，どう伝えていくのかなどは，校長としての悩みどころかと思います。

他にも，現在進められて

いる「GIGA スクール構想」，地域移行を踏まえた部活動の在り方の検討，学校における働き方改革の実現など，学校からの教育改革を推進し，Society5.0時代の学校づくりに向けて，リーダーシップを発揮していくことが求められています。

先程，大きな転換期と申し上げましたが，私たち校長が，この変革の時代を好機ととらえ，本当に必要なものを回復するとともに，コロナ禍での多様な教育実践の工夫を取り入れることにより，新しい学びの在り方への進化を図り，カリキュラム・マネジメントを計画的・組織的に推進しながら，令和の日本型学校教教育の実現に取り組んでいくことを，全員で確認し合いたいと思います。

今年度は10月13日に，４年ぶりに会員が参集し，栗原文化会館に於いて，第41回研究協議会北部大会が，半日の日程で開催される予定になっております。着実にポストコロナを歩んでいる姿を，全員で確認できる機会でもあります。成功裡に終えられますよう御協力をお願いいたします。

ポストコロナの県中学校長会がスタートしました。「新たな中学校教育の創造」の気概を全会員で共有し，宮城県教育の一層の充実・発展に努めてまいりましょう。

結びに，会員が相互に研鑽を深め，その成果を自校の学校経営に生かされることを祈念し，開会の挨拶といたします。

祝　　辞

宮城県教育委員会
教育長
佐　藤　靖　彦 様

宮城県中学校長会総会の開催に当たり，一言お祝いを申し上げます。

本日，県内の中学校の校長先生方が一堂に会し，宮城県中学校長会総会が開催されますことを心からお喜び申し上げます。

中学校長会の皆様におかれましては，日頃より，本県の教育振興のために，先頭に立って御尽力いただいておりますことに敬意を表し，県教育委員会としまして，改めて御礼を申し上げます。

さて，人口減少，少子化が進展し，教育に対するニーズも多様化していく中で，教育機会確保法への対応や，学校におけるＩＣＴ化の進展，部活動の地域への移行など，教育をめぐる環境は，大きく変化してきております。そのような中でも，校長先生方のリーダーシップの下，教職員とともに，地域の方々や保護者の皆様と力を合わせ，様々な創意工夫を凝らしながら，一人一人に寄り添った教育活動を展開していただいていると伺っております。

東日本大震災から12年が経過し，震災の時に生まれた子供たちは，中学１年生になりますが，今の子供たちは，震災に加え，新型コロナウイルスの影響など，私たちが経験していない，厳しい環境の中で学校生活を送ってきております。

これまでも，校長先生をはじめとする教職員の皆様の熱意と努力により，地域との深い関わりの中で，本県の学校教育の復旧・復興は着実に進められてきましたが，引き続き，こうした子供たちの状況にも，しっかりと気を配りながら，宮城の教育を進めてまいりたいと思います。

また，子供たち自らが，困難な状況にも向き合って生きることのできる柔軟性や適応力，夢や志をもち，可能性に挑戦するために必要な力を身に付けることができる教育を目指すとともに，いじめ対策や不登校支援にもしっかりと取り組み，子供たちが安心して，充実した学校生活を送ることができる教育環境を創っていきたいと考えております。

私は，今年度当初，職員に対し「学校現場と『悩み』や『感動』を共有すること」をテーマの一つに掲げ，子供たちが行きたくなる学校づくり，学校現場で働く先生方が，やりがいをもって，楽しく働ける学校づくりを目指し，学校現場と一緒に「悩み」，学校現場と「感動」を共有できる教育委員会になれるよう，一緒に知恵を絞っていきたいと話しました。

また，教育は，マイナスをゼロに戻すのではなく，明るい未来のためにあるものだと思っています。そのためには，校長先生をはじめ，教職員の皆様の御協力が何より重要と考えております。ぜひ，皆様のお力をお貸しいただきたいと思います。

県教育委員会としましては，市町村教育委員会とこれまで以上に緊密な連携を取り，学校を支援してまいりたいと考えております。

結びに，校長先生方には，皆様の豊富な経験や知識，何よりも，長年教育に携わってきた志を，若い先生方にお話ししていただきたいと思います。そして，校長先生自らが笑顔でいてほしいと思います。

将来の宮城を担う子供たちの健やかな成長のために，子供たちが毎日，楽しかったと感じて家に

帰れるように，先生方が教える喜びを感じて働けるように，御尽力いただきますことをお願い申し上げますとともに，宮城県中学校長会の一層の御発展を祈念し，お祝いの言葉といたします。

新会員代表挨拶

登米市立新田中学校
校　長　**小野寺　春　樹**

本日は，宮城県教育委員会教育長佐藤靖彦様をはじめ，御来賓の皆様には，御多用の中にも関わらず御臨席の栄を賜り，厚くお礼申し上げます。

また，これまで公私にわたり，御指導・御鞭撻をいただきました諸先生方，並びに，日頃からお世話になっております地区校長会をはじめとする先輩の皆様に，この場を借りてお礼申し上げます。

さて，私たちは今年の４月に，中学校校長としての第一歩を踏み出しました。

これまでと一変した立場に戸惑いながらも，微力ではございますが，日々，子供たちのため，保護者のため，地域社会のため，職員のため，そして，自分自身の理想とする学校づくりのために，努力を重ねているところです。

2020年からコロナ禍の閉塞感が続き，学校の行事やイベントの開催も自粛してきましたが，５月８日より感染法上の分類が２類から５類に変更されるなど，ようやく変化が訪れました。

教育界は今まさに，コロナ禍後の教育への対応や，加速する教育のＩＣＴ化への対応，部活動の地域移行など，急速かつ激しく変化する社会への対応が迫られています。

そのような中，志をもち，未来を創造する子供を育てる学校づくりを行っていくために校長としてリーダーシップを発揮し，教育を前進，発展させなければならない立場にあります。

しかし，実際には，今の自分の力の至らなさに気付かされ，日々，自己研鑽の必要性に気付かされております。

校長の立場となり，学校課題を的確に捉えどのように学校を導くか，地域とのつながりをどのように推進していくべきかなど，考えれば考えるほど，改めて，これまでの勤務地で御指導いただいた校長先生方の教育信念，頼もしく力強い決断力，肝の据わった人間力を思い出します。

今日晴れて，この宮城県中学校長会総会に参加させていただく栄誉を賜りました。

まさに，宮城県の教育を牽引してきてくださった皆様を目の当たりにし，畏敬の念が沸き起こっております。

急激な社会情勢の変化，教育における困難な状況を，先見と知見をもって切り開き，県民からの信頼と実績を積み上げてこられた，諸先輩方の教育への熱い情熱と的確な判断力，決断力，そして人間力を受け継がなければならないと，覚悟を新たにしているところです。

これから私たちは，宮城県中学校長会の一員として，常に真摯に学び，責任をもつ姿勢，誠実に人と触れ合う心をもち，そして安心安全の確保を忘れずに，時代が大きく変化する時勢にあっても，「子供たちの未来のため」に，「学校は何ができるのか」，そのために「校長として何をすべきか」を問い続け，日々精進してまいります。

最後になりますが，御来場の皆様の御健勝，並びに，本会のますますの御発展を祈念いたしますとともに，今後も，皆々様からの変わらぬ御指導を賜りますようお願い申し上げ，代表の挨拶とさせていただきます。

宣　　言

今日，我が国の教育は人格の完成を目指し，伝統と文化を尊重するとともに，豊かな人間関係で満たされる持続可能な社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは，自然災害や新たな感染症の発生，グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化する中，新しい時代の中学校教育の課題に対応するとともに，自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し，新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は，東日本大震災による被災からの再生とポストコロナにおける学びの充実，教育改革の推進を第一義に，これまでの成果の上にたって，当面する教育課題の解決を図り，特色ある学校づくりに努め，県民の付託にこたえる決意である。

ここに，第74回総会に当たり，下記事項を決議し，その実現に期する。

決　　議

一　人間尊重の精神に徹し，「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。

一　学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し，確かな学力の定着，豊かな心と健やかな体の育成を推進する。

一　現在の教育課題に即した研修を充実し，教職員の資質･能力の向上と使命感の高揚に努める。

一　創意ある教育活動を展開し，家庭・地域社会の信頼に応える開かれた学校づくりに努める。

一　教育活動の活性化を目指し，人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。

一　「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し，教育水準の維持向上を期する。

一　引き続き「学校における働き方改革」を推進し，教職員の勤務実態を踏まえ，有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期し，Society5.0時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮する。

一　東日本大震災をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し，教育活動の充実に向けた支援と防災教育・安全教育の充実に努める。

令和５年６月１日

宮城県中学校長会

新　任　抱　負

「真摯に向き合って」

白石市立小原小中学校長
鴫　原　　薫

木々の緑と，鳥のさえずりが美しい「風光明媚」な小原の地に赴任して２か月が過ぎました。

「おはよう」，「今日は何して遊ぶ？」ほぼ，毎朝のように聞かれる会話，上級生も下級生も一緒になって前庭で遊び始めます。異学年の児童生徒が集団になって遊ぶ姿を，ほほえましく感じている毎日です。小原の自然と，小原の人々の温かさや優しさを感じ，どの子も伸び伸びと学校生活を送っています。

本校は，白石市内から車で15分ほどの山間の学校で，小学校と中学校が併設されており，小中一貫での教育活動を展開しています。現在の児童生徒数は21名，少人数を生かした授業，総合学習では，小原の環境，自然，伝統文化を学ぶ教育活動を行っています。具体的には，小学校５年生から中学校１年生までが「森と水」の循環について，地域学習を行ったり，小原弓道会の御協力のもと弓道体験を行ったりしています。小原地区は百矢納めという神事が行われるほど弓道の盛んな地域です。他にスパッシュランドパークの植栽や清掃活動では，小学校１年生から中学校３年生までの縦割りグループになって活動するなど，小規模ならではの活動をしています。学校はまさに，地域あってこそ，「地域に浮かぶ船」だと実感する毎日です。教職員は，小規模校の特性を生かし，児童生徒一人一人に合わせて指導を行っており，「探究の対話」では，教員も一緒に対話を行います。そのため，生徒と教員の相互理解が深まっています。学校は児童生徒，保護者，教職員，地域があって成り立っていると実感する日々です。今，目の前にいる児童生徒のため，明るい笑顔と声が響く安全で安心な学校，「ふるさとを誇りに思い，心豊かでたくましくかしこい児童生徒の育成」のため，真摯に職務に向き合い，自らの職責を全うしていきたいと考えています。

新　任　抱　負

「生徒の良さを更に伸長させるために」

角田市立北角田中学校長
山　家　一　博

本校は角田市の北方，阿武隈川と国道349号に挟まれた田園地帯に位置し，各学年２クラス，特別支援学級４クラス，計10クラスの小規模校です。校長室からは雄大な自然を望むことができ，行き詰ったときは外の景色を眺めてからギアを入れ直して職務を進めています。

さて，本校生徒は明るく元気な挨拶ができ，特に会釈をしながらにこやかに挨拶できる生徒が多いのが特長です。また，一生懸命働くことができ，清掃活動や行事の準備，片付け等にも率先して取り組んでいます。このような姿は幼・保・小学校のときから培われ，本校でも奉仕の心を継承し，育まれたものであると認識しています。十数年前から始まった阿武隈リバーサイドマラソンへの地域貢献活動等は，そのような生徒を育成する上で大きな役割を果たしていると考えます。これらの良さをより一層伸長させることは私の職責であると思っています。

また，宮城県及び角田市の教育方針を踏まえ，夢や志をもち，21世紀をたくましく生きる人づくりを進めていきたいと考えています。本校では，校訓を「自主」「奉仕」「健康」，そして目指す生徒像として「き…気品ある生徒」「た…大志を抱く生徒」「か…活気ある生徒」「く…苦楽を共にする生徒」を掲げています。この「きたかく」を合言葉にした生徒の育成を目指し，日々教育活動を推進していきたいと思います。そのためには，校長として生徒や地域の実態を再確認し，保護者や地域の協力を得ながら，全教職員の力を結集することが肝要です。情報を共有しながら，しっかりと課題を見据え，同じベクトルで共に歩んでいきたいと思っています。

最後になりましたが，管内外の校長先生方によく声を掛けていただき，心より感謝を申し上げます。諸先生方の後ろ姿を見ながら，生徒も教職員も笑顔と活気にあふれる学校づくりに向け，全力で職責を果たしていきたいと思います。

「生徒・保護者・地域・教職員に愛される学校を目指して」

名取市立第二中学校長
本　田　正　晴

本校は，昭和56年旧高舘中学校を母体校に増田中学校区のＪＲ東北線以西の地区を併せて新設されました。校庭の桜並木と田んぼの緑，一日に何度も通過する新幹線をバックに，校庭で生徒が伸び伸びと体育や部活動を行っていると，つい仕事の手を止め，校長室の窓を開けたくなります。３月まで学校を離れていたので，当たり前でも，学校に生徒がいて活動していることに喜びを感じます。

「地域に根ざした学校」という言葉がありますが，本校の特色ある活動となっている「仕事博覧会」は，学校と地域をつなぐ役割を果たしています。「仕事博覧会」とは，地元にある様々な仕事を知ることを目的に，農業，製造，サービス業など市近郊の企業等から協力をいただき，その仕事について働く人から学ぶ本校独自のキャリア教育です。令和４年度は，コロナ禍にも関わらず，27の企業等に御協力いただきました。今後も地域学校協働本部と連携を図りながら，地域及び保護者とともに生徒を育てていきたいと思います。

５月に関東方面への修学旅行がありました。新幹線で仙台駅を出発し５分，学校の近くを通過する際，校舎に目を向けると先生方が屋上で旗を振って見送ってくれていました。先生方の温かさと素直に喜ぶ生徒の姿にジーンとくるものがありました。校舎が立地するこの位置は，新幹線の出発時であれば，旅の楽しさからくる「わくわく感」また到着時であれば，あと少しで自宅に帰れる「安心感」を抱く場所です。生徒にとってこの第二中学校も「わくわく感」と「安心感」を得られる学校になってほしいと思います。

今後，３年間我慢したマスクが徐々に外れ，生徒の表情が更に見える日が増えるでしょう。人と関わることを大切にしながら，生徒だけでなく，保護者，地域，教職員の笑顔があふれる学校となるよう努力したいと思います。

新　任　抱　負

「地域とともに」

岩沼市立玉浦中学校長
佐　藤　秋　生

玉浦中学校は，海岸線から２㎞離れた場所に位置しており，東日本大震災では，津波により校庭が水没し，床上浸水は免れたものの，多量の漂着物，自動車などが校庭を埋め尽くしました。また，多くの住民が本校に避難し，一夜を明かし救助や避難を待った経験をしている地域にある学校です。赴任にあたり，被災地での教育，生徒・保護者，地域に寄り添う教育はどうあればよいのか，不安を抱えたまま４月赴任しましたが，本校独自の防災教育が早速４月から展開されている様子を見るにつけ，大変頼もしく思いました。

今後も，まずは「災害から生き延びる」こと，「自分の命を守る」ことを訓練などを通じて伝え，“災害から生き抜く力”を育てていきたいと考えます。また，防災教育と併せて地域のよいところを知り，郷土に誇りをもち，大切にする気持ちを育むことも大切にしていきたいと思います。地域が好きで愛着があるからこそ，そこに住み続けたいと願い，いざという時には主体的に自らの命を守り抜けるような「防災教育」に取り組んでいきたいと考えます。防災教育は何よりも継続することが大切です。継続により地域の中に「災害から生き抜く力」を身に付けた若者を輩出し，やがて彼らが親になり「災害から生き抜く力」を備えた家庭ができあがり，その環境の下で次世代の子供たちが育まれます。それが結果的に，災害に強い地域づくりにつながるのだと思います。

災害を経験した地域にある学校の校長として，大切な命を守るため，不断のマニュアルの見直し行い，二重三重の対応策を考えていければと思います。

赴任して間もなく３か月。不安と戸惑いばかりの中で，教職員や地区校長会の先輩方をはじめ，関係の皆様の御助言等のおかげで，今日まで過ごすことができたと思っております。これからも教育目標「心身ともに健康で，知・徳・体の調和の取れた，心豊かにたくましく生きる生徒の育成」の実現のために，保護者や地域の皆様からの御意見をいただきながら最善策を一緒に考え，地域と共にある学校づくりに努めてまいる所存です。

「居場所の多い学校に」

多賀城市立東豊中学校長
阿　部　欽　一

４月３日，生徒会の心温まる歓迎セレモニーを受け，着任することができました。

東豊中は，多賀城市の東方に位置し，生徒は251名･10クラスの学校です。校是は「自主」と「敬愛」。都市部の学校なので，斜に構えている生徒もいるのかなと思いきや，そんな心配は無用でした。落ち着いた節度のある生徒が大多数です。ただし，コロナ禍が続いたためか，少々おとなしいようにも思いました。

赴任して２か月。毎日が無我夢中ですが新鮮です。自分が何をしたいのか・どんなことを行いたいのか毎日自問自答しながら過ごしています。「誰かに聞けば何とかなる」というこれまでの生活が一変し「校長先生」の後に続く相談の数々。問われ・判断する場面が過ぎ去る度に，これまで仕えてきた校長先生の偉大さに改めて気付きます。同時に，背伸びをせずこれまでどおり分からないことは分かる方に聞き，情報をしっかり拾えるアンテナと諸先輩からお教えいただいた知恵・経験則を生かしたいとも思います。

多賀城市では，学力向上の視点として「安心して学べる居場所感」「没頭し夢中になれる学習」を掲げています。特に「安心して学べる居場所」については，学校に足が遠のいている生徒についても考える必要があると感じ，力を入れています。教師と生徒の関わり方をはじめとする教育環境・授業改善の他にも，市の福祉部局等との連携，小・中・高連携で取り組んでいる志教育「東翔塾」の運営など一つ一つの活動のこれまでの歩みを確かめながら，その中に子供の居場所がたくさんできるよう，進めていきたいと考えます。

先日，防災の研修会の学びの中で，「空振りはＯＫだが見逃しはＮＧ」という考え方を学びました。大切な考え方だと思いつつ，防災以外にも大いに当てはまると思いました。その行動を支える安心・安全な居場所づくり。意識しながら，職責を果たしていきたいと思います。

新　任　抱　負

「明日も来たくなる！」

七ヶ浜町立向洋中学校長
髙　橋　松　雄

「今度の勤務先は宮城県だからね。仙台市とは違うところもあるけれど頑張ってください。それから職名は校長です。よろしくお願いしますね。」前任校の校長先生から異動の際に校長室で伝えられ，驚きと不安とで怒涛の令和４年度末を過ごし，令和５年４月に向洋中学校に着任しました。

４月３日県庁で辞令をいただいた後，「どんな生徒たちがいるのだろうか」「どんな先生方がいるのだろうか」等，緊張で昼食も食べられないぐらいの気持ちで学校に向かいました。校門でＫ先生に「少々お待ちください」と声を掛けられ，しばらくして校舎正面の駐車場へ向かうよう案内されました。カーブを曲がると，そこには駐車場を囲むように春休み中の部活動に参加していた生徒たち，先生方が総出で私の到着を出迎えてくれました。車を降りると吹奏楽部の演奏が始まりました。演奏した曲は私自身が初任の時に生徒と一緒に苦楽を共にして吹奏楽コンクールで初めて県大会に出場した時の曲でした。出迎えてくれた生徒たちの目は当日の青空のように輝き，その側で先生方が寄り添い微笑んでいました。その瞬間，緊張はなくなり「先生方と一緒に，子供たちのために」という思いが沸き上がってまいりました。

着任してから約３か月が過ぎようとしております。校長室からは，水が張られ田植えが終わった田んぼが目の前に広がり，遠くには木々の合間から太平洋を望むことができます。また校庭には体育の授業で運動する元気いっぱいの生徒の姿が見え，校舎内に歌声が響き，教室では生徒それぞれが落ち着いて授業に取り組み，時折，職員室から笑い声が聞こえてきます。

先月，一緒に行った修学旅行で３年生のある生徒が「やっと修学旅行ができた。当たり前だけどうれしい」と笑顔で語っていました。特別なことではなく，当たり前のことが当たり前にできるように，生徒も先生方も本校に関わる方々皆さんが「明日も来たくなる学校」になれるよう，全力を尽くしてまいりたいと思います。

「挑戦」することの大切さ

富谷市立富谷第二中学校長
星　　淳

４月３日，県庁での辞令交付式を終えた後，富谷市教育委員会への挨拶を済ませ，富谷第二中学校へ向かいました。学校では，部活動をしていた新２・３年生，そして教職員による心温まる歓迎を受け，すばらしい出会いにとても心が温かくなりました。この生徒たち，教職員のために「よりよい学校づくりに力を尽くそう」と身が引き締まったことが思い出されます。

富谷第二中学校は，富谷市の南西部に位置し，国道４号線沿いの５つの団地から成っています。現在生徒482名が学び舎で過ごしております。生徒は素直な心をもっており，特に，部活動や生徒会活動，学校行事等に創意工夫しながら自主的に活動しています。教職員は，情熱にあふれ，日々の教育活動に前向きに取り組んでおります。

校是は「自立」「協同」「壮健」です。夢や希望をもち，未来を切り拓くことのできる生徒の育成を目指しています。そんな二中生に今年度掲げたテーマは「やってみよう！（成功体験だけでなく）」「切磋琢磨（関わり合う力を高めるために）」「自治的な生徒会（体験と言語化・意識化・日常化）」の３つです。ポストコロナとなり，学校の生活はコロナ前のような生活に戻っていくことでしょう。多くの生徒は「あんなこと」「こんなこと」をやってみたいと，たくさんの思いや希望に満ちあふれています。ぜひ，その志を大切にし，未来に向けて果敢に「挑戦」できるたくましい二中生に育てていきたいと思っています。また，我々教職員は，全てを単純にこれまでどおりに戻すのではなく，コロナ期間に学んだ知恵を生かし，より良い学校生活ができる「これからの新しい学校」を築いていきたいと思っています。

最後に，校長としてこれまでの良き伝統をしっかり引き継いでいくとともに，学校の課題には速やかに改善に取り組んでいく所存です。教職員とともに，生徒とともに，そして保護者・地域の方々とともに学校教育活動に邁進してまいります。

新　任　抱　負

「心の教育の充実をめざして」

大崎市立田尻中学校長
三　浦　美　紀

４月の着任では，部活動にきていた生徒から熱い歓迎を受けました。キラキラと目を輝かせていた生徒を目の前にして，この生徒たちのために力を尽くしていこうと決意しました。

２か月が経過した今,先輩の校長先生方から「校長というのは孤独だ」「判断は日常で，校長は決断の連続である」という話が自分事として実感しているところです。

田尻中学校について少し紹介したいと思います。大崎市の東部に位置しており，大崎耕土を形成している田園地帯にあります。学区内には，マガンの飛来地でラムサール条約に登録されている蕪栗沼があります。全校生徒は205名で，礼儀正しく，思いやりがあり，バレーボールやハンドボールなどの部活動が盛んな学校です。特色ある教育活動として，SDGs を意識した取組，防災教育の一環で被災地訪問学習などがあります。保護者や地域との連携も積極的で，「地域で育てる子供」という意識が高い地域でもあります。

本校では，「共に高め，支え合いながら，自らの夢の実現を目指し，夢中で取り組もう！」をスローガンに掲げ，『認め合う』『励まし合う』『学び合う』といった人間関係を基盤とし，生徒の主体的な活動を促す教育活動を実践しています。これまで対面式や生徒会総会，壮行式などで，生徒会総務の生徒が中心となって準備を重ね，運営している姿に，校長として頼もしさを感じています。校長職に就いてみて，これまで苦手としていたこと（特にこのような文章を書くこと，人前で話すこと）が当たり前のようにやってくるので，もっと修行が必要だと思っています。また，どんな役職であっても，結局最後は「人」を助け，助けられるということも感じています。生徒や教職員に頼りにされるように，私の人間関係づくりももっと頑張りたいと思っています。

自然豊かな田尻中学校で，生徒も先生も笑顔で元気に過ごすことができる学校づくりを目指して，学校経営をしていきたいと思います。

「学び続ける」ということ

栗原市立志波姫中学校長
鈴　木　　司

赴任初日，校長室に入室した際，鉢花と葉書が目に飛び込んできました。それはこれまでお世話になった諸先輩からの贈り物でした。

初任時代の恩師からは「君の使命はその力を赴任した学校の子供たち，そして教職員の育成に注力することだ」との言葉もいただきました。初任校長として，職責を果たすための指針を探していた自分にとってこの言葉は至言でした。直筆の文字を見たとき，初任時代に戻った錯覚を抱き，久しぶりに背筋が伸びる思いがしました。

先輩方からの佳言には共通点がありました。

一つ目は「覚悟」です。自分でも漠然とは考えていました。しかし，先輩方からの言葉として受け止めた時，重みが全く違うことに気付きました。二つ目は「つながり」です。「自分も（先輩方に）育ててもらった，今後は君の番だ」とのメッセージを強く感じました。

今回，このような形で気付かせてくださった先輩方の優しさ，カッコよさを改めて感じた次第です。きっと学校長という立場の重みは，このようなつながりで連綿と継承されてきたのだと思います。以前「職業人に話を聞く会」の講師を務めた際「教師に必要な力」の話題になりました。その際生徒から，「学び続ける力」との回答があり，はっとさせられたことがあります。

学校現場は生きています。毎年のように新たな課題が生まれ，その対応のために奔走しています。また，耳慣れない言葉も氾濫しています。生徒の回答「学び続ける力」が身に染みます。

志波姫中の校長室には24代に渡る校長先生方の写真が掲げられおり，顔を上げると，諸先輩方がこちらを見ています。何か問い掛けられているようにも感じます。叱咤激励，いや，叱咤叱咤叱咤少しの激励，かもしれません。それに応えるべく，また，先輩方が築いてきた学校文化をつなげ，生徒や教職員の成長を促すためにも，率先して学び続けていきたい，そう思う日々です。

新　任　抱　負

「人との縁を大切に」

涌谷町立涌谷中学校長
野　家　智　昭

「涌谷町立涌谷中学校です。」と内示を受けた時は，「本当ですか？」と思わず聞き返してしまいそうになりました。“人との縁”というものは，どこまでつながるのだろうかという不思議さと，校長という重責が自分に務まるのだろうかという不安で一杯だったことを覚えています。

涌谷中学校の前任の校長先生（U先生）とは，以前登米市内の中学校で，一緒に勤務させていただいたことがありました。当時の自分は，その中学校で学年主任を３年間勤めており，そこに新任校長としてU先生が赴任されました。U先生の御指導の下，自分は学年主任そして初めての教務主任も経験させていただきました（ちなみに，教務主任１年目のこの年は，自分の教員人生の中で一番といっていいほど大変な一年でした…）。２年間の御指導をいただいた後，U先生は行政職への勤務となりました。次の年，なぜか自分も行政職へ…。２年の行政勤務の後，地元の中学校で教頭を２年間。更に，U先生と入れ替わるようにまた行政勤務を命ぜられ，そして今回…。まるでU先生の後を追いかけているようなこの人事。たまたまと言ってしまえばそれまでですが，自分としては勝手に“縁”を感じていました。

涌谷中学校は，旧涌谷中と旧箟岳中が統合し，歴史と伝統のある涌谷町で，唯一の中学校として開校して今年で９年目となります。このような学校の校長が，果たして私に務まるのかと，緊張と不安で一杯でした。しかし４月３日の一斉赴任日。生徒たちの心のこもった歌声と温かい歓迎の言葉が「自分にできることを，誠意を持って精一杯やるしかない。」と決意させてくれました。

赴任して２か月が過ぎて感じるのは，「素直で真面目な生徒たち，生徒に寄り添い見守る教職員，学校に協力的な保護者と地域」と，自分は“人との出会いに恵まれている”ということです。これからも“人との縁”を大切にしながら「魅力ある学校づくり」を目指していきたいと思います。

「新任校長としての抱負」

登米市立新田中学校長
小野寺　春　樹

今年の４月に，登米市立新田中学校に赴任し，新任校長としての第一歩を踏み出しました。しばらくの間，他管区の中学校や特別支援学校に勤務していたため，気付けば居住地である登米市の中学校には24年ぶりの勤務となります。

新田中学校がある登米市迫町新田地区周辺は，宮城県の北東部に位置し，学区内には水鳥の飛来地として知られる伊豆沼（ラムサール条約），内沼，長沼があります。各沼は水鳥の越冬地としてだけでなく，貴重な水生植物や昆虫，在来淡水魚類を育む豊かな自然環境を形成し，トンボや魚，水鳥をはじめとする多様な生物相を育んでいます。新田中学校はこのような自然豊かな環境の中にあります。地域の方々は，学校に対して非常に協力的です。コミュニティ・スクールの学校運営協議会は，学習・環境・安全・行事のサポート分野に分かれており，委員の方々の働き掛けにより，各分野でたくさんの地域のサポートスタッフの皆様に御協力・御支援をいただきながら学校運営が行われています。

また，本校は平成20年度より新田第一小学校と新田第二小学校が統合した新田小学校と施設一体型の併設校となり，小学校１年生から中学校３年生までが一緒に活動する機会が多くあります。このような，小中連携校としての特色を生かし，「豊かな心を持ち，主体的に学ぶ心身共にたくましく生きる生徒の育成」を学校教育目標に掲げ教育活動を推進しております。

令和５年度で本校は創立77年目を迎え，第１学年25名，第２学年23名，第３学年20名，全校生徒名68名，総勢17名の職員（常勤14名・非常勤３名）でスタートしました。生徒をはじめ，保護者，地域の皆様，職員が「新田中学校で本当によかった。」と心から誇りをもって言える魅力ある学校づくりを目指していきたいと思います。

最後になりましたが，これまでの勤務地で御指導いただいた校長先生方をはじめとする先生方や関係機関の皆様に対する感謝の気持ちを忘れずに，新任校長として研鑽を積んでまいります。

新　任　抱　負

「校長室の窓から」

気仙沼市立面瀬中学校長
吉　川　　泉

校舎２階にある校長室の窓は，南向きに迫り出し，遠くに海，山，三陸道を望みながら，校門から校庭の全てを一望できる位置にあります。校舎内に耳を傾けると，隣の職員室から教職員の声が，開放した廊下側の戸口からは，ホールで集会や部活動をする生徒の声，隣接する玄関からは来客の声が聞こえ，授業中の教室の声すら聞こえてきます。机上の仕事を放って，誘われるように，ふらふらと校舎巡視をしてしまいます。

開校34年目になる本校は，当時，地域の方々の強い希望により新興住宅地区に新設された学校でした。開校と同時に学校が地域の拠り所となり，地域は発展してきました。それだけに，学校に寄せる地域の期待は大きいと感じています。平成15年には，地域の方々の熱い思いで「総合型地域スポーツクラブ」が設立され，以来，学校部活動と連携し全面的に支援をいただいています。また，小中合同のコミュニティ・スクールも今年で２年目を迎え，話合いの中からは学校での教育活動をより充実させるアイディアがたくさん生まれています。まるで，不甲斐ない新任校長を支えようとしてくださっているようです。「学校は地域に浮かぶ船」，今この言葉の意味を強く感じています。

今はまだ目の前の仕事に追われ，慌ただしく過ぎる毎日ですが，ふと時間にゆとりがもてたとき，校長室で学校の息づかいを感じながら，考えを整理する時間は私にとって大変貴重な時間です。

明るく開放的で，居ながらにして子供たちの声や姿，職員室の様子が感じられる校長室。常に俯瞰して地域や校地全面が見渡せる校長室。玄関に隣接し，来客を招き入れやすい居心地の良い校長室。この校長室の配置には，開校に携わった方々の特別の思いが込められていると感じてなりません。その思いに応えられるよう，新米校長はとにかく広く見て，よき聴き，よく考える，そう心掛けていきたいと思います。いつか，この校長室にふさわしい校長となれるように。

編集後記

退職校長を代表し，三田村素志前会長は御挨拶の冒頭の部分で「総会の開催がコロナの関係で厳しい時期もあったが，連綿と続く本日の総会の姿を拝見し，通常の開催の在り方にまた一歩近づく形で開催されたことに対して敬意を表したい。」という趣旨の話をされました。全会員が一堂に会しての宮城県中学校長会総会が昨年度に引き続き開催され，マスクなしの校長先生方の姿も多数見られるようになり，「ポストコロナ」での本会の活動がいよいよ本格化していくことを予感させられました。

さて，本会は県内各地区中学校長会相互の連絡提携を図り，中学校教育の全領域に渡り当面する課題の検討や研究協議，関係機関への提言や情報発信を行い，本県教育の振興に寄与することを目的としています。Society5.0という新時代において，生徒が持続可能な社会の担い手として成長していくために，今後も会員相互の力を結集して創造的且つ豊かな教育活動を推進してまいりたいと思います。

終わりになりますが，この度の会報作成に当たり，多くの方々に御協力を賜りました。原稿を読み返してみると，執筆にあたられた関係各位の教育に対する情熱が伝わってまいります。コロナ禍やウクライナ情勢の影響も相まり，予測が一層困難と言われる中で，学校のリーダーとしての強い覚悟というものを感じました。御多用のところを，執筆に御協力いただきました関係の皆様に心から感謝申し上げます。　　（情報部長　佐々木）

令和５年度　宮城県中学校長会事務局

〒985-0851
多賀城市南宮字八幡170
多賀城市立第二中学校内
TEL：022-309-1351
FAX：022-309-1352
E-mail：miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

事務局員：佐々木　奈美子

宮城県中学校長会ホームページ
http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/